

薬局で実施した地域活動の健康イベント (薬局へ行こうウィーク)における患者 さんとスタッフの行動変容の考察



○久松 開人、久松 徹 (げんき堂薬局)



【目的】

平成28年度より当薬局の各店舗で患者さん向け健康イベントを行っていて、薬局内掲示やチラシを作成したがなかなか動員が難しく、またスタッフの取り組み体制も不十分で、イベントを行っている店舗スタッフだけの特別な関わりとして薬局内で運用している状況であったので、各店舗の隔たり無くスタッフの一体感を生み、地域活動への参加意識を高めることが出来る。

そして、患者さんの調剤薬局というものに対するイメージ(処方箋を持って行って薬をもらうだけ)を払拭し、処方箋なしでも気軽に立ち寄れる場所であるということを伝えたい。

これらの2点のことから、平成29年6月1日から7日までに実施された全国的な取り組みの「薬局へ行こうウィーク」として6月4日に佐賀県武雄市文化会館小ホールを借りて、健康フェスタを行った。

【方法】

イベント実施に当たり、栄養相談・血管硬度測定に焦点を絞りその項目において薬局で出来ることを考えた。また、6月4日から10日までが歯の衛生週間であることから歯科医師の講演会も行った。

スタッフのミーティングで以下の5点を行うこととした。

- ・血管の硬さ測定
- ・お薬相談
- ・栄養相談
- ・講演会(歯科医師、当薬局薬剤師)
- ・バイオリンミニコンサート



写真1 健康フェスタ

【結果】

フェスタ参加者は約140名。講演会、ミニコンサートとも、非常に好評であった。講演会中に血管硬度測定、お薬・栄養相談を行ったが、こちらも多くの方に動員して頂いた。お薬相談をしている中で、今まで薬局に行ってもどこで誰に相談すべきか分からなかったが、今後は薬局の相談コーナーやカウンターでも話をしたいという意見もあった。血管硬度測定の内1名がかなり注意を要する結果が出たので生活習慣と食事の見直しのアドバイスを実施し、受診勧告を行った。(翌日、受診された。)

【考察】

健康サポート薬局の制度がはじまり、薬局の地域活動の重要性が高まっていく中で、薬局個々で実施項目を考えることはハードルが高いが、全国的なイベントということでスタッフや来局者の参加への敷居を低くすることで活動への意識変化、動員数の増加が認められた。今後継続的にイベントを行い、更なる多職種連携を取れるようにスタッフとのミーティングを定期的に行うことを決めた。

【利益相反】

本研究における利害関係のある製薬企業、医療機器関連企業はございません

健康フェスタに参加してみて

